

山麓探偵団通信

7月号

今夏も、春エッセイがにぎやかです
昨夏につづいて、富士山麓の森は
セミの鳴き声で、梅雨明けがせかされ
ているような気になります。

さて、六月の探偵団は、戸高雅野団
長の沢での一泊でした。両日の感想文
を掲載しますが、七月十五日発売の「岳
人」に、戸高さんの特集が十ページ組
まれるそうですので、ぜひとも「購読
宣伝ください」。

参加団員の感想

とにかく高齢者は、こつした企画に参
加するとき、グループのみなさんに迷惑
をかけているというひげ目から、勝手に
惨めな気持ちになりがちで、参加するこ
とすら躊躇ってしまいますが、今回は
そんなこと、みじんも感じませんでした。
しっかりと守られているという安心感
があり、自分のもっている力をすべて出
しきれたという満足感と達成感から、疲
労もむしろ心地よく、高齢者であること
が、誇らしく思えたのが不思議です。
往路は足を滑らせたりして、みなさん
に支えられて現地に着きましたが、沢の

水音を聞きながら、分業で夕食をつくつ
たり、焚き火を囲んだりしていくうちに
なんともこのころ安らかになりました。

翌朝は、三十五度の急勾配を、戸高さ
んのロープに、わたし、主人の三人が一
連托生、一歩一歩踏み固めて下さった足
場をたよりに、熱気で真っ白になった眼
鏡と滴る汗を道すれに、登りました。戸
高さんは、「枯れ枝に掴まるとあぶな
い」など、細かい指示を出されても、け
っして手をさしのべることはされず、辛
抱強く待っていてくださいました。「信
頼されている」というこのころの支えが、
自分で認識する以上の力を引き出して
くれたのだと思います。

この貴重なグループ（人間のつなが
り）の活動を、大切に、いつまでもつ
づけてほしいと願います。(K・N)

「編集人：八七才と八〇才のご夫妻」



< カマドの火を吹くNさんご夫婦 >

はじめの探偵団参加、雨でした。で
も、それが楽しかった。雨にぬれた木々
や草の緑は生きいきして、空気がやわら
かで、岩や石は本来の色にもどって、水
をふくんだ落ち葉や苔は蒸気に心地よ
く、目に見えないほどの小さな水のつぶ
が、いろいろなことを伝えてくれたよう
に思います。

雨の音、風の音、沢のせせらぎの音
薪のはぜる音、雨の匂い、緑の匂い、焚
き火の匂い、ご飯の炊ける匂い、ミルク
ティー、コーヒの香り、冷たく力の満
ちた水、揺れる炎、薄く雲のかかった月
沢の上に見える星、朝日にきらめく緑
たなびく煙（虹鱒の燻製きれいだったな
あ）そついつものに包まれたしあわせな
空間でした。

誰からももなく語り、笑い、歌い、静
かな時が流れ、とても心地よい時間とし
た。なんの不安もなく、無理なく楽しい
る行動ペースとタイミングと行程とし
た。

「ここまでではあるだろう、ここまででは
なんとかなるだろうと、気付くとポター
ラインまでがんばろうとする、いつも
のわたしには、解放されるような、のび
のびした一日でした。

団員の皆さんからも、森からも、たく
さん力をもらいました。森も喜んでいて
くれるといいな。最後に、みんなを手を
つないで、森に感謝したときに見たのは
薄く淡い紫色の山間でした。自分のいつ

もの暮らしでも、そんな空間と時間を感
じられたらいいなと思います。(S・O)

七月の探偵団活動

「演習場内の野草たち」

七月は、昨年好評だった、広大
な北富士演習場内の植物に出会
う一日を、計画しています。

七月十四日(木) 十六日(土)

昨年同様、蓑田尚美さんを団長
に、ふだんは立ち入り禁止の演習
場内を歩きますので、くれぐれも
足元の装備をしっかりしてきて
ください。できれば、長靴または
スパッツが適当です。そして、泥
や岩に足をとられぬように、足首
を柔軟に回す訓練を、今のうちに
しておいてください。

集合：午前九時に「あみん」

約四十分のレクチャーのあと、現
地探索に出発します。

参加費：二、三〇〇円

持物：昼食、敷物、雨具、虫眼鏡等

申込締切：それぞれ二日前までに、

あみんをお願いします。

発行「山麓探偵団事務局」

電話 〇五五五・六五・七〇三三

編集人＝樋口裕肇